



## 「散歩のついでに・好きなきに」が合い言葉。気軽に続けていきたいです。

今回は、仙台市シルバー人材センター・第一地域班の有志8名とOG1名、合計9名が実施している清掃ボランティアについてお話を伺いました。決まった日時・場所に集合して一斉に行うのではなく、各々が好きなきに活動しています。顔を合わせることがなくても活動が続いている秘訣や、今後の目標などを伺いました。

### 「散歩」をより有意義に、地域貢献の一助にも。

— どのような経緯で、ごみ拾い活動を始めたのですか。

橋本さん：私たちは仙台市シルバー人材センター（以下、センター）に登録しているのですが、登録すると自宅のある地域によって班に分けられるんです。その「地域班」の役割が「親睦とボランティア」ということを知り、4年ほど前に班のメンバーに「ボランティア活動をやってみたいですか」というアンケートを取ったことがありました。結果、3割くらいの人が「やりたい」と回答してくれたのですが、何をやれば良いのか、見当が付きませんでした。なぜなら、私たちは会社のような組織にいて、毎日顔を合わせているわけではありません。ですから、決めた日に1カ所に集まって何かをするというのは現実的ではないのです。そんなとき、清掃活動を提案してくれたのが島貫さんでした。そして、2018年11月に活動を始めてから、2020年1月迄に延150回の活動をする事ができました。



班長

橋本 昭正さん

兵庫県神戸市出身。趣味はフットボール観戦(母校KGファイターズファン)。(写真左)

リーダー

島貫 孝雄さん

宮城県仙台市出身。趣味は車で気の向くままふらりと出かけること。(写真右)

島貫さん：「できることを・できるときに・できる範囲で」というのがボランティアの基本です。そこで思い浮かんだのが、平成20年頃から第一地域班で参加していた広瀬川流域の一斉清掃活動「広瀬川1万人プロジェクト」でした。そこで、手始めに自宅周辺から、散歩のついでにごみ拾いをやってみてはどうだろうか、班長である橋本さんに提案したのです。

橋本さん：私たちの班には、以前から県道脇のごみ拾いを一人で続けている方がいて、町内会のみみんなで一緒にやりましょうと働きかけたそうなのですが、なかなか実現に漕ぎ着けないという話を聞いていました。そんなメンバーもいるのならばと、清掃活動を行うことに決めて、さっそくメンバーを募りました。メンバーはほとんどが男性でしたが、男性は“公園デビュー”ならぬ、“地域デビュー”が遅れがちであるという課題解決に、地域に少しでも貢献することで、ひと役買えるかもしれないという思いで始めたのです。

島貫さん：シルバーには「キョウイク」（今日、行くところ）と「キョウヨウ」（今日の用事）が必要であると言われるので、健康や楽しみのための散歩が、より有意義なものになればいいなということも考えました。

— “地域デビュー”は、かなったのでしょうか。

島貫さん：始めたのが2018年の11月と日が浅いので、まだ「道半ば」といったところでしょうか（笑）。メンバーから聞いた話から想像すると、住宅地は人通りも少ないので、どなたかの家の近くでごみを拾っていると「何をしているんだろう」と、不審に思う人もいます。

橋本さん：そこで、理事にセンターと相談して頂いたところ、「仙台市シルバー人材センター」と書かれた黄色のビブスを貸し出してもらうことになりました。いまは、それを身につけて散歩とごみ拾いを行うようにしています。もちろん「アレマ隊」の腕章も付けていますよ。

## お尻を叩いてくれる人の存在が、継続のカギ。

— 活動の日時や時間、気になったことなどを月ごとに集計していらっしゃいますが、これはどなたが行っているのですか。

橋本さん：島貫さんです。毎月末日に電話やメールで聞き取りをしてくれるので、それがメンバーの励みになっているのが良くわかります。

島貫さん：私の方こそ、皆さんに連絡を取り、コンスタントに活動を続けている様子がわかると、自分もがんばろうと思えます。また、一人のメンバーがタバコの吸い殻を数え始めたことで、私もタバコの吸い殻だけ、数えることにしました。いまでは、全員が数を報告してくれます。「タバコの吸い殻が多いね」というよりも、「今月は400本も拾った」という実数を示す方が、インパクトは大きいような気がします。

橋本さん：「好きなときにやる」という私たちのやり方は、裏を返せば「好きなときに止めても良い」ということになってしまう危うさを含んでいるんです。私たちは決まった日に集まるわけでもありませんので、良い意味でお尻を叩いてくれる人がいること、そして散歩のついでにできる手軽さが、これまで続けてこられた秘訣だと思います。

## ごみ拾い活動に参加してくれる仲間を増やしたい。

— この活動に参加することで、ご自身に変化はありましたか。

橋本さん：正直に申しますと、最初は「ごみなんて、そんなに落ちているものなのかな」と思っていたんです。でも、実際に活動を始めてみたら、これがあるんですね（笑）。バス停や信号周辺、駐車場などに多く捨てられていることがわかりました。以前は、ごみが落ちていても意識に入ってこなかったのでしょうか。このような体験ができたことは、大きな発見でした。

— 最後に、今後の目標を教えてください。

島貫さん：シルバーの方々には、元気な方が多いですし、散歩を日課にしている人は少なくないと思いますので、一緒に活動してくれる人が増えれば良いなと思っています。

橋本さん：メンバーの自宅は、地図上では「点」に過ぎませんが、各々がごみを拾っているエリアをプロットすると、かなり広範囲な「面」になります。今後は、活動の範囲を地図上で「見える化」するなどして、自分たちの活動を評価し、自信がもてるような取り組みもしていこうと考えています。

## 【仙台市シルバー人材センター・第一地域班のごみ拾いスタイル】 「黄色のビブス」が存在感を示し、身の安全を守る目印です。

「散歩のついでにごみを拾う」というのが、橋本さんや島貫さんたちのごみ拾いスタイル。活動中であることを周囲に示すために、また交通事故などに遭わないように、散歩に出るときには、黄色のビブスを身につけるようにしています。



ごみ拾い活動を実践している、仙台市シルバー人材センター・第一地域班有志の皆さん。